

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

「つつるびかぴか」は古くさい 隈 研吾 (建築家)

1. 未来都市というと、皆さんはつつるびかぴかの都市をイメージするかもしれない。僕はもっと原始的なものに変えていくほうがいいと思っている。例えばその地域の自然素材を使った、空調に頼らないような生活。そこにDX (デジタルトランスフォーメーション) を生かす。つつるびかぴかの都市にするというのは今、むしろすごく古くさく見える。
 2. 日本は、実はコンクリートと自動車のモデルから一番離れた都市づくりをしてきた、世界でも非常にピュアな存在だ。特に江戸の街づくりはたくさんのヒントをくれる。低層都市だから地面に近いし、水にも近い。江戸の人は絶えず自然を感じながら生きていた。自然に近いほうが精神的に落ち着くし、人間関係もスムーズになる。日本人にはそんな特質が備わっているのではないか。
 3. 一番大きな転換点は第2次世界大戦の後だろう。コンクリートと自動車によって東京が一気に自然から隔離されてしまった。バブル崩壊までのイケイケの感じというのは、本来の日本の姿だとは思わない。少子高齢化時代に最も適したモデルが日本の江戸時代にあったわけで、僕はもう一回現代の技術でそれを復活させたい。
- (参考:「日経ビジネス」2021年9月13日号)

人事・労務について

「ツナグ」人材の育成を急げ

柳川 範之 (東京大学大学院教授)

1. 組織改革には、どうしてもある程度の痛みが伴いがちだ。したがって、それを乗り越えるためには、「何のために行く、どのような方向を目指す組織改革なのか」を、従業員に納得感を与える形で提示する必要がある。それに加えて、組織を新しく組み替えていくうえでは、異部門内、異分野内でうまく連携が取れる、いわば「ツナグ」人材の育成が急務だ。
 2. 今求められているのは、「他企業や他部門とどうしたらうまく連携ができるのか」「この部門の製品と別部門のサービスが何かうまくつながる可能性はないのか」といったことを考えられる人材であり、能力である。それには専門性があるだけでなく、他分野の技術などにも積極的に関心を持ち、既存の枠にとらわれず連携の可能性を考えられる人材が必要だ。
- (参考:「週刊東洋経済」:2021年9月11日号)

ワンポイント経営アドバイス

企業の都合で労働条件を決めてはいけない

大藪 誠司 (ハンズマン社長)

1. 九州を地盤にDIYホームセンターを展開するハンズマン (本社・宮崎県) は、「ハンズマンで働いて良かった」と思ってもらえる会社作りの一つとして、大藪誠司社長が業界ナンバーワンの給与の実現を社員に約束した。すると社員に安心感が生まれ、接客が向上した。業績の伸長とともに社員の収入も増え、平均年収は約549万円となった。これは全国の会社員平均を約110万円も上回っている。
 2. 大藪社長は「企業の都合だけで労働条件を決めてはいけない。社員が安心して働くことができることが重要」と考え、成果主義は導入しない。一般的に小売業は薄利多売で非正規雇用が多くなりがちだが、同社の正社員比率は8割と高い。そこから考えても、ロスジェネ (就職氷河期世代) は、「経済界の都合」で生まれたものにほかならない。
- (参考:「Wedge」2021年10月号)

古典に学ぶ

武士道は商工業者にも必要なもの

(解説) 古の商工業者は武士道に対する観念を著しく誤解し、正義、廉直、義侠、敢為、礼讓等のことを旨とせんには、商業は立ち行かぬものと考え、かの「武士は喰わねど高楊枝」というが如き気風は、商工業者にとっての禁物であった。惟うに、商工業者に道徳は要らぬなどとはとんでもない間違いであったのである。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)